KIANEWS

Kitakyushu International Association News
北九州国際交流協会ニュース

No.42

「星に願いをこめて…」　2004年6月26日(土)～7月7日(水)開催の「皿倉七夕まつり」
●市内の小学生が作った手作りの短冊が装飾された200本の竹竿が歩道を埋めつくします。

1 平成16年度 (財)北九州国際交流協会事業紹介
2 国際交流ラウンジ リニューアル！
3 中村もとき講演会「もときの撮り歩き」開催 ／ 外国籍市民北九州懇話会の開催
4 日本語ボランティア研修 ／ 帰国・外国人児童生徒サポーター制度
5 INTERVIEW SPOT with 近藤 美佐子さん
6 シニア海外ボランティア

［当協会の基本方針］

～異なるものを理解、尊重し、ともに生きる人・社会づくりを目指して～

どのように国際化が進んでも、国際交流の基本は人と人が出会い、お互いを理解することから始まります。
そのためには、私たち自身の文化や歴史を知ることも大切であり、個人個人のアイデンティティの確立が必要となります。
そして、異なるものを理解し、受け入れること、これが地域社会で共生するために最も大切なことであると考えます。

平成16年度（財）北九州国際交流協会事業紹介

相互理解の促進

［人材（国際人）の育成］
- 姉妹都市交流事業
  - 韓国ライフ体験ツアー
  - 米国ライフ体験ツアー
  - 国際文化青少年会議
- 英語留学一日体験
- インターナショナルキャンプ

［相互（多様な）文化理解の促進］
- 北九州国際交流ウィーク
- 国際交流員事業
- 国際交流人材バンク
- 外国語談話室

情報機能の拡充

- インターネットによる情報発信
- メールマガジン発行
- 留学・ワーキングホリデー説明会
- 広報誌の発行
- 交流ラウンジの運営
  - 図書コーナー
  - 情報ボード
- こくらインフォメーションの運営

市民交流の促進

［市民ボランティアの支援・育成］
- 国際ボランティア入門講座
- 日本語ボランティア研修
- 帰国・外国籍児童サポーター制度
- ホストファミリーボランティア
- 北九州国際交流団体（キーネット）支援事業

［在住外国籍市民支援］
- 入国・在留・国籍・ビザ手続き無料相談
- 法律相談
- なやみごと相談

［留学生等の支援］
- 日本語弁論大会の開催
- 留学生に対する生活支援
  - 中古自転車の提供
  - 福岡地域留学生住宅保証制度
  - 留学生資金貸付
- 留学生里親制度

国際交流ラウンジ リニューアル!

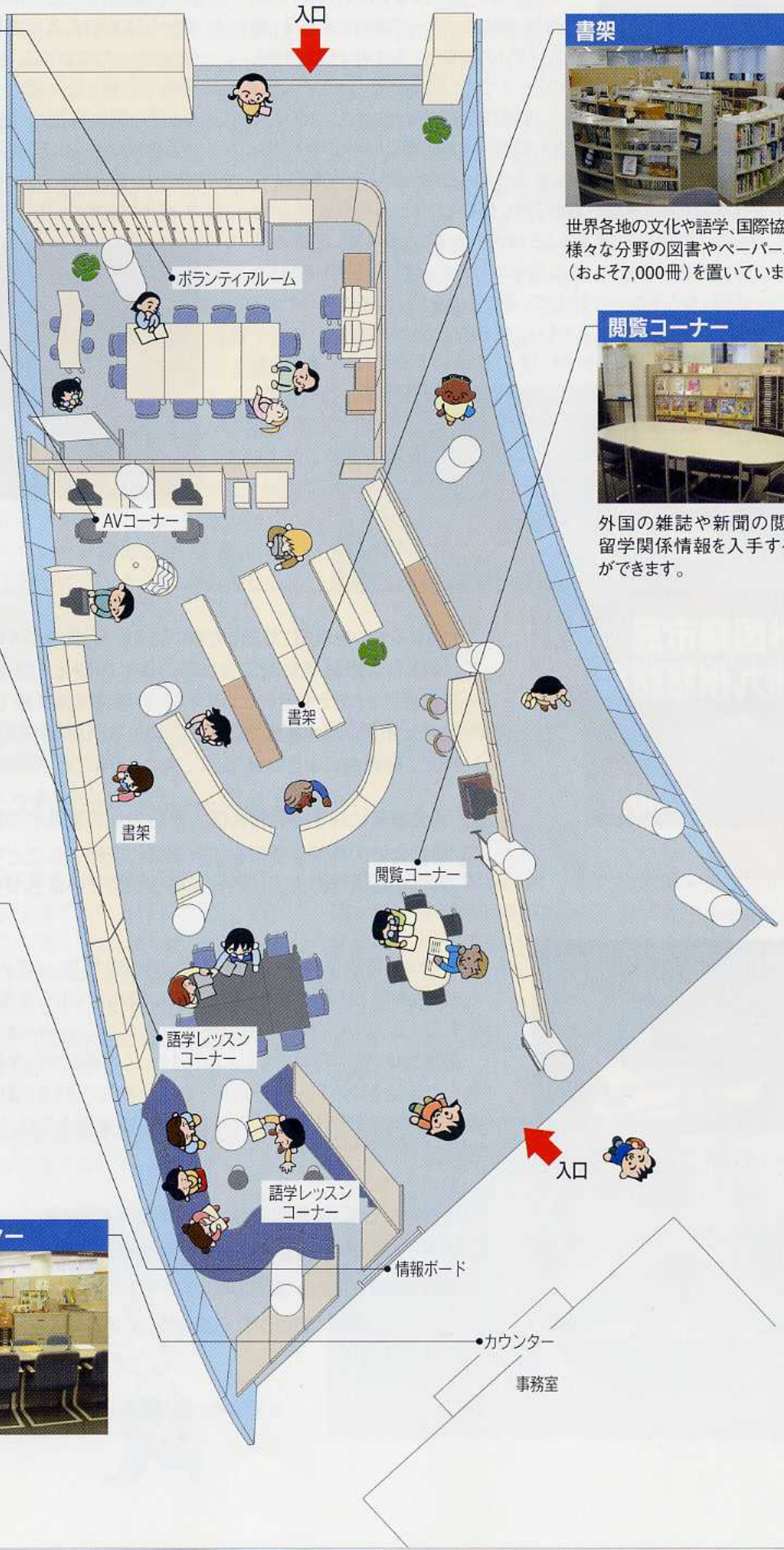
国際交流ラウンジは、主に図書資料の閲覧・貸出、在住外国人との交流の場として一般の方に開放しています。

協会に「グループ登録」をした市内のボランティアグループが利用することができます。

ビデオリストに載っているビデオはこちらで視聴できます。

外国人登録ボランティアによる『外国語談話室』や市内のボランティアグループによる日本語教室等が行われています。

語学の交換レッスンや交流イベントの案内、物品の提供など、市民と在住外国人の情報交換のためにメッセージボードを設けています。



世界各地の文化や語学、国際協力等、様々な分野の図書やペーパーバック（およそ7,000冊）を置いています。

外国の雑誌や新聞の閲覧や留学関係情報を入手することができます。

中村もとき講演会「もときの撮り歩き」開催

皿倉山が雪化粧し、時折吹雪が横殴りに吹き付け、春の訪れが遠のいてしまったと感じさせる3月7日（日）、国際村交流センター国際会議室は、地元メディアでおなじみの中村もときさんのトークでここだけが夏のようでした。

当初の定員200人に対し、460人を超える応募があり、しかも応募者の多くが、いかに中村さんの大ファンかをアピールするコメントまでハガキに記載していて、これを抽選すべきか否か、悩むところから準備が始まりました。集客に苦労することは時々あることですが、応募の多さに戸惑うのはめったにないことです。嬉しい悲鳴をあげながら、なんとかやりくりして、第2会場を設営、モニターテレビによる中継講演のスタイルで実施にこぎつけました。

中村さんはテレビ・ラジオの仕事のかたわら、写真家としてもご活躍中で、世界各国を撮影旅行で巡られています。初めて行った船旅での香港のお話や、ベルリンの壁崩壊前後に体験した共産圏の国々の大変貌の様子など、これまでの海外での体験談を持ち前のユーモアたっぷりにお話しいただき、会場は笑いと「へぇ～」の連続でした。

会場外の通路には、これまでの撮影旅行での作品を展示し、その腕前の見事さに唸っている参加者も多くいたようです。また中村さんは、この講演会の直前にもベトナム南部からお帰りになったばかりで、出来立てホヤホヤのスライドを使って、現地での様々なエピソードも語っていただきました。

「その国の事情は、実際行ってみなけりゃわからない」「行けるうちに行ったほうがいいですよ」と、おもしろおかしく話を締めくくった中村さんですが、異文化理解に対する心構えもきっちり押さえて示してくださいました。

外国籍市民北九州懇話会の開催

「異なるものを理解、尊重しともに生きる人・社会づくりを目指して」を基本方針として、（財）北九州国際交流協会は草の根の国際化を推進しておりますが、協会事業を一層発展させることを目的に、昨年6月の準備会議を経て、2月29日に（仮称）「外国籍市民北九州懇話会（座長 藤本新二 （財）北九州国際交流協会運営委員長）」を発足しました。懇話会による効果として、次のようなことが期待できます。

1. 協会事業に対する在住外国人からの生の意見や要望を聞くことができます。
2. 懇話会での提案や要望を協会事業に反映することで、あらゆる国籍の市民にとって暮らしやすいまちづくりを推進できます。

懇話会を構成するのは、市内在住の中国、韓国、ウガンダ、ドイツ、ブラジル、メキシコ出身の7名の委員と地域で外国人支援に携わっておられる3名の日本人の委員の皆さんです。

会議では、特に「外国人」、「市民」という呼称について時間の大半を費やすほどの白熱した議論があり「外国籍市民」を使う方向でまとまりました。その他にもボランティア、ITの活用などに関しても委員の方々から提案がありましたが、次のような方向性が見えてきました。

- ○ 在住外国人向け事業や広報における課題を検討する。
- ○ 苦言や問題指摘だけでなく、前向きなアイデア提案もしたい。
- ○ 会議の頻度を高める（当初の年２回から3ヶ月に一度開催）。
- ○ 滞在期間の長短に関わらず、必要に応じて委員以外の方にも参加してもらう。

◆懇話会の討議結果についてはKIAnewsでこれからもお知らせします。

日本語ボランティア研修

3月18日(木)と25日（木）の2日間、18時半より20時まで「日本語ボランティア研修」が行われました。今年の研修は、「日本語を教えてみたい」という初心者を対象に、平日の夕方の時間で2回行われました。ふたを開けてみると、定員30名にもかかわらず、70名近くの応募があり、「日本語ボランティア」に対する関心の高さが伺えました。

第1回目は、北九州市立大学・国際教育交流センターの印道緑教授をお招きして、北九州における日本語ボランティアの背景について講義をしていただきました。「『外国人』とはどんな人たちのことだろう」という問いに始まり、「『日本人』とはどんな条件を持っている人たちのことだろう」、「その中での日本語教師やボランティアの役割とは」、「学習者が本当に必要としている日本語学習支援とは」と次から次へと展開していく話に聴講者は引き込まれていました。1時間半という時間があっという間に感じられる講義で、「時間が足りなかった」という意見も多く出ました。

一週間後の第2回目には、JICA九州・国際協力推進員の嶋村有美子氏に来て頂き、嶋村氏が「日本語を教えること」に興味を持ったきっかけから、ボランティアグループ設立失敗談、また、その後、日系社会青年ボランティアとしてブラジルにて日本語学校教師をしていた経験談を聞いた後、グループに分かれてワークショップを行いました。同じ興味を持った者が「日本語ボランティアの資質」や「必要なものは何か」等、話し合う機会が設けられ、グループで様々な意見を出し合っていました。

開催後のアンケートによると、「今後ボランティアとして活動したいと思っていたので、こういう講座を受けることで、更に日本語を勉強するきっかけになってよかった」、「日本語ボランティアに限らず、こういった気軽に参加できる内容の講座を今後も企画してほしい」という意見もいただきました。

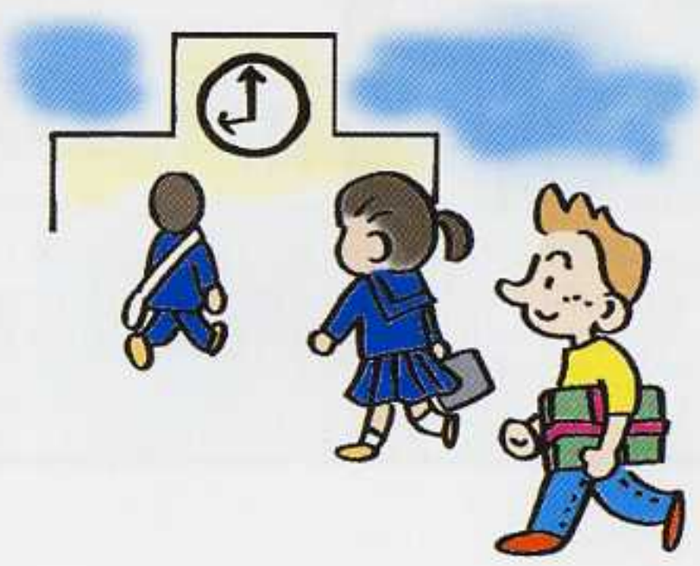
（財）北九州国際交流協会では、これからも市民のニーズに合った様々な講座を開催していきたいと思います。何かご意見やアイディアがありましたら、是非教えてくださいね。

帰国・外国人児童生徒サポーター制度

現在、北九州市内の小・中学校には、200人以上の帰国・外国籍児童生徒が在籍しています。

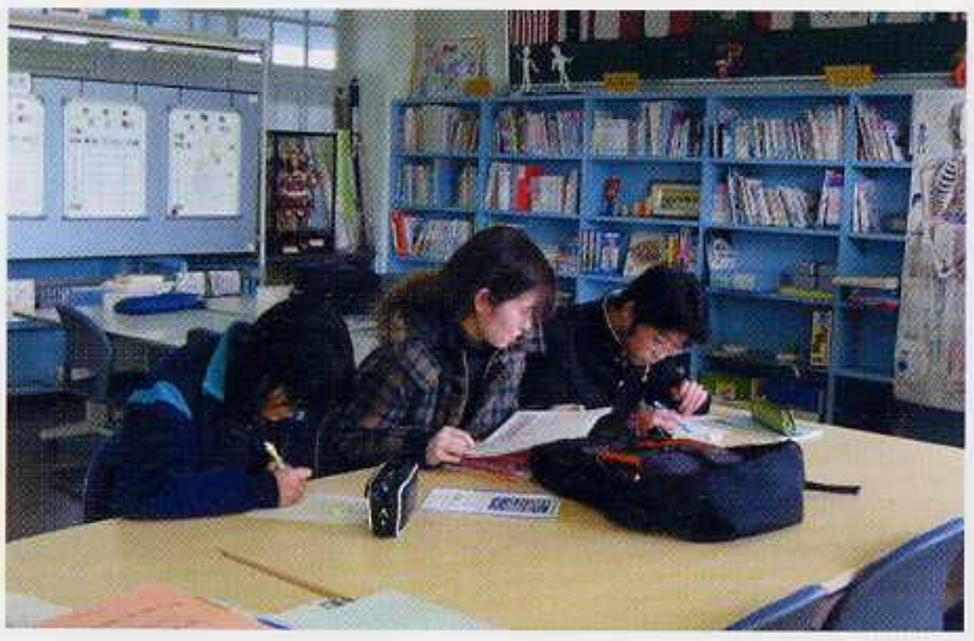
教育委員会では、国際化推進センター校を3校指定し、専任の教師を配置し、また日本語指導員が各学校を巡回して、これらの児童生徒の指導にあたっていますが、来日したばかりの子供たちの中には、言葉の問題や生活習慣の違いから、学校になじめない、勉強についていけないといった事例も少なからず見受けられます。

このような子供たちの学校生活適応への支援をしてもらうのが、『帰国・外国人児童生徒サポーター制度』です。



（財）北九州国際交流協会では、外国人児童生徒の在籍する小・中学校と連絡をとり、そういった子供たちを支援・サポートしてくださる市民ボランティア（サポーター）を探しています。

なお、サポーターの募集・登録・学校への紹介は、協会が行います。サポーターに興味のある方は、是非、協会までご連絡ください。



そらねこ屋

INTERVIEW SPOT with 近藤 美佐子さん

近藤さんは小倉北区で亜細亜・多国籍雑貨そらねこ屋を経営されています。
まるでアジアのマーケットのような雰囲気が漂う店内には、
フェアトレード&エコロジー商品がたくさん。

エコロジー雑貨店 フェアトレード&オーガニック そらねこ屋
TEL. 093-562-5606 FAX. 093-562-5616
URL. http://www4.ocn.ne.jp/~soraneko/
E-Mail. soranekoya@beach.ocn.ne.jp

■国際援助の必要性を感じたきっかけは?

もともと旅行好きでいろんな国に行きました。旅行先では貧しい人々、裕福な人と本当にいろんな人たちに出会いました。きっとパックツアーで海外へ行っても、都会の中にある貧富の差って見えることがあるのではないでしょうか?“国際ボランティア”が盛んに取り上げられるなかで、「こちらが一方的に行う金銭援助って本当に公平?」という疑問を感じていましたし、援助される人たち自身が自立しなければ本当の援助にならないという思いがありました。

■フェアトレードとの出会いは?

東京で仕事をしていた頃に、買い物で立ち寄ったお店で“ぐらする一つ”の商品を偶然見つけました。“ぐらする一つ”では、自分に必要なものを買うことで国際援助が出来るフェアトレード商品を扱っています。その時は何も購入しませんでしたが(笑)こんな国際援助の方法があるの!という発見でした。リュックを背負って海外を旅行している時に、本当にたくさんの方々(決して裕福ではなくても)にお世話になったので、今度は私がお返しをする番だと思いましたね。何らかの形で海外、特に欧米以外の国々とつながっていたいという思いは常に持っていましたので、買い物をするなら、同じ仕入れならフェアトレード商品、となりました。

■お店にはどんな方が来られますか?

平日は、ご近所の方が多いですね。週末には、遠方から来られる方も少しずつ増えてきました。やはり女性が多いですが、年配の方でもボランティア活動をされている方は意識も高く、フェアトレードにも関心をお持ちのようです。店内をご覧になったお客様からは「どこの国のものが多いの?」という質問をよくされます。日本を含むアジア、インド、アラブ、アフリカ、中南米と様々な国で作られた商品を正当な価格で販売しています。

■お客様の反応は?

やはり、商品は手に取って触ってみることが大事ですよね。例えば、「私もビーズを習っているんだけど、この細かい作業は大変。随分時間がかかったんじゃないかしら?」とおっしゃるお客様には、すでに作り手の顔が見えているはずです。商品を手にとってみることをきっかけに、生産者のこと、その国のこと、そしてフェアトレードを知るお客様もいらっしゃいます。反対に何も関心を持たれない方もいらっしゃいますが、お客様の素直な反応を見ることが出来ますね。

■お店の名前の由来は?

単純に“そら”と“ねこ”が好き。それから、お店の名前をあいまいにする事も目的でした。海は陸地でプツッと切れている感じがするんです。「あの国で会ったあの人たちは元気にしているかなぁ」と思いを馳せて見上げる空は、途切れることなく遠くどこまでもつながっている感じがします。犬は四六時中“好き!”と愛想よく忠実、猫は気分次第でその時々の自分の気持ちに正直な気がします。ですからお店に来られた反応も、本当にひとそれぞれで良いと思いますし、フェアトレードを押し付けるつもりはないのです。

“ねこ”と同じように、フェアトレードに対するみなさんの考えも様々で良いのかもしれません。しかし、フェアトレード商品を購入するという行為そのものが、遠く続く“そら”の下で暮らす人々を支えることは紛れもない事実です。「お店にいる間は時間を忘れてゆっくりしてほしい」ため、そらねこ屋には時計がありません。そらねこ屋に一歩足を踏み入れると日ごろの喧騒を忘れ、ほっと心落ち着くひとときを感じていただけるはずです。

【シアバターソープ】
アフリカの乾燥地帯での保湿の元、シアバターで作られた石鹸。アフリカの人たちと青年海外協力隊員との協力で作られています。

※フェアトレード
公正貿易のこと。特に第三世界を対象とする貿易について、自由競争の観点、正当な利益や貿易に伴う環境への負荷などの観点からいう。オルタナティブトレード。(デイリー新語辞典/三省堂)

シニア海外ボランティア

これから世界に出発します

「シニア海外ボランティア事業」は、日本政府によるODA（政府開発事業）の一環として、海外でボランティア活動を支援する制度で、JICA（独立行政法人国際協力機構）が平成2年に開始し、平成16年3月時点で、51カ国に累計で1,709名が派遣されています。

3月29日に、シニア海外ボランティアとして出発されるお二人が北九州市を訪問し、活動にあたっての抱負などを語っていただきました。

①名前　②派遣国・配属先　③職種　④抱負

① **田中 邦明**さん

② アルゼンチン
マルコスファレス市技術センター

③ 中小企業技術マネジメント

④ 今まで得てきた経験と知識を活かして、現地のお手伝いをしていきたい。家族と一緒に行くので、活動のほかにも地元の人々と一緒に交流していきたい。

① **坂口 千賀子**さん

② ネパール
知的障害者福祉協会

③ 知的障害者教育

④ 障害者の生活自立支援と生活環境改善のための情報提供を行っていきたい。

きっかけはみんなの中に　坂口さんへのインタビュー

[応募のきっかけは?]

5年前ほどにテレビで見た開発途上国の現状、特に障害児の置かれている状況が心に残り、何かできないかと思ったのが始まりです。ただ、その頃はシニア海外ボランティアについては知りませんでしたし、以前、青年海外協力隊に興味がありましたが、電気・機械や農業のイメージしかなかったので、自分とはあまり関係がないと思っていました。しかし去年の秋に、新聞でたまたまシニア海外ボランティアの広告を見て、募集要項を取り寄せたところ、職種に知的障害者教育があり、これまで自分がやってきた事を活かせる内容だと思い、応募しました。

[周りの人の反応は?]

子供達は、すぐに賛成してくれました。主人と両親、兄弟には、説得を繰り返しました。自分の思いをきちんと話していく事で理解してくれ、最後には、笑顔で送り出してくれる事になりました。また、友人からは「坂口さんが行く事で私まで元気をもらった」といわれ、嬉しく思いました。帰国したら必ず会って、活動体験を話したいですね。

[不安はありませんか?]

知らない土地に行くので、不安はあります。なんといっても言葉が心配です。でも、障害者や指導する職員はもちろんですが、その障害者の保護者や近所の人々まで巻き込んで、料理やゲームなどで交流し、笑顔で接していく事で乗り越えていけると思います。

[活動目標と抱負を教えてください。]

ネパールでの知的障害者福祉が遅れている原因は、障害に対する無知による偏見だといわれています。しかし、それは障害者と実際に接してみることにより払拭され、本当の理解が得られるはずです。そして、それが障害者の生活環境改善につながるのだと思います。知的障害者には周りの理解が必要なので、そのための「場と情報」の提供を行っていきたいと思います。また、保護者にも一緒に生きていくために必要な指導助言をしていきたいです。「周りの人々に笑顔を」を目標に、障害者・職員そして周りの人々とも協力しあって、「ネパールにある幸せ」を見つけたいと思っています。

[最後に、みなさんに一言]

シニア海外ボランティアは、私にとっては思ってもみなかった選択肢でした。でも、今までの経験・知識を活かす場としてシニア海外ボランティアがありました。自分を活かす場所は海外だけでなく、住んでいる地域にもあると思います。是非、興味ある事があったらそのドアをたたいてみてください。きっと見つかると思います。

※北九州市では、JICAボランティアとして海外に派遣される北九州市出身の方に「北九州市国際親善大使」を依頼し、任国において北九州市の情報発信と友好の架け橋として活躍していただいています。

～風がふく場所～ 国際協力の窓　JICAボランティア事業の紹介

自分のもっている技術や経験をアジア・アフリカ・中南米・中近東・東欧の人々のために活かしてみたい。JICA（国際協力機構）は、ボランティア精神をもって開発途上国の国づくり・人づくりに協力したいと希望する人々を世界に派遣しています。青年海外協力隊は、現在世界69カ国2,150名が活躍しています。職種は農林水産部門、加工部門、保守操作部門、土木建築部門、保健衛生部門、教育文化部門、スポーツ部門があります。

	①青年海外協力隊 ②日系社会青年ボランティア	①シニア海外ボランティア ②日系社会シニアボランティア
年　齢	20歳から39歳まで	40歳から69歳まで
募集回数	①年2回（春・秋）　②年1回（春のみ）	①年2回（春・秋）　②年1回（秋のみ）
派遣期間	原則として2年	1年ないし2年
応募資格	上記年齢であり日本国籍をもつ心身ともに健康な方	

こんにちは。JICA国際協力推進員の嶋村です。昨年6月より、（財）北九州国際交流協会に勤務しています。これから、国際交流・協力に関わる情報などを毎号、掲載していきます。国際協力に興味ある方への相談や活動されている方・団体のお手伝いをしています。JICA事業の紹介、ボランティア事業の相談（←私は2003年2月まで2年間、日系社会青年ボランティアとしてブラジルで活動していました。）なども行っています。是非、お立ち寄り下さい。

嶋村 有美子

お知らせ

INFORMATION

開催します

【講話会】

「平和と友情の願いを運んだ人形の物語」

人形を日本の小学校に贈る活動を続けている米国のギューリック3世夫妻が来北しての講演会。日本語通訳あり。

福岡教育大学付属小倉小学校に贈られた「ジェシカ」

日　時: 平成16年5月30日(日)
　　午後2:00～4:00
場　所: 九州国際大学KIUホール
定　員: 300名
入場料: 無料
申込み: お電話で

「英国留学説明会と模擬体験」

英国の公的な文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルによる説明会を開催。"海外留学に必要なIELTS(アイエルツ)試験の説明"だけでなく、"英語留学の魅力"にも迫ります。英国人講師による模擬講義で英国への理解をさらに深めましょう。

日　時: 平成16年6月6日(日)
　　午後1:00～4:00
場　所: 国際村交流センター 2F 会議室
定　員: 50名
入場料: 無料
申込み: お電話で

「ワーキング・ホリデー説明会」

(社)日本ワーキング・ホリデー協会九州事務所との共催でワーキング・ホリデー説明会を開催。"ワーキング・ホリデー制度の説明"、"渡航に関するアドバイス"に"体験談"と、内容盛りだくさんの2時間。お申し込みはお早めに!

日　時: 平成16年6月27日(日)
　　午後2:00～4:00
場　所: 国際村交流センター 2F 会議室
定　員: 50名 (先着。定員になり次第締切)
入場料: 無料
申込み: お電話で6月4日(金)から受付けます。

情報提供

「在住外国籍市民の無料相談受付け中」

北九州の生活の中で何か困っていることはありませんか? 北九州国際交流協会では、みなさんの悩み事や問題を解決するために以下の無料相談会を行っています。秘密は厳守しますのでお気軽に安心してご相談ください。

「行政書士無料相談会」

相談日: 毎月第3日曜日
　　午後1:00～4:00
※申込みは必要ありません

「法律・なやみごと相談会」

相談日: 毎月第4土曜日
　　午後1:30～4:30
※申込みはお電話で。
　開催日の3日前までの受付けです。

募集します

「(財)北九州国際交流協会賛助会員加入のお願い」

地域の国際化を推進するため、当協会の運営にご賛同くださる皆様の加入をお願い申し上げます。

【賛助会員の特典】
○協会機関紙、パンフレット等をお届け
○印刷物の頒布
○協会開催事業のご案内
○講座・講演会等へのご優待
○図書の貸出特典
　(貸出冊数増・貸出期間延長)
○提携旅行社のパック旅行割引
　　などがあります。

会　費: 【個人】1口　年額　2,000円
　　【団体】1口　年額 20,000円

「北九州国際交流ウィーク2004 "市民イベント"参加者募集」

平成16年10月16日(日)～24日(日)の9日間、国際村交流センターを中心に「北九州国際交流ウィーク 2004」を開催します。この期間中、国際交流・協力に関するイベントを"自主的に"行う団体(個人でも可)を募集します。選考あり。

【応募方法】
募集要項及び申込書を国際交流協会または各区のまちづくり推進課に置いています。申込書に記入後、郵送または持参して下さい。

【応募期限】
2004年6月8日(火)必着

KITAKYUSHU INTERNATIONAL ASSOCIATION

編集発行
(財)北九州国際交流協会

〒805-0062 北九州市八幡東区平野一丁目1番1号 国際村交流センター3階
TEL(093)662-0055　FAX(093)662-6622
URL: http://www.bcc-net.co.jp/kia/　e-mail: kia@jnb.odn.ne.jp

こくらインフォメーション
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野3-8-1 AIM2F
TEL (093)551-0055　FAX(093)551-1289